

前 奨 連

前橋市生涯学習
奨励員連絡協議会

責任者 大井常利

事務局
前橋市教育委員会
生涯学習課内

〒371-0023
前橋市本町2-12-1
前橋プラザ元氣21
3階

☎ (027) 210-2198

会報二〇〇〇号の発行にあたり

前橋市長 小川 あきら

このたび、前橋市生涯学習奨励員連絡協議会の会報「前奨連」の発行が、記念すべき一〇〇〇号を迎えられたことを心からお喜び申し上げます。

本市の生涯学習奨励員制度は、昭和六十一年四月に発足し、今年で三十八年目になります。これまで長らく続けられたこと、本部長として、関係皆様には、心から感謝申し上げます。

さて、現代を生きる私たちは「人生一〇〇年時代」を迎えています。一〇〇年という長い期間をより充実して過ごすには、家庭教育、学校教育はもとより、社会人の学び直しに至るまで、生涯にわたる「学び」が重要となります。若者から高齢者まで、全ての人が、笑顔で元気に活躍し、安心して豊かに

豊かに暮らすことは人づくり



暮らすことのできる社会を目指すための、「人づくり」が求められる時代です。こうした中、各町の自治会と生涯学習奨励員の皆様が、日々連携して、学びの成果を地域づくりに還元する取組に邁進されていることを大変心強く感じております。

どうか皆様には、「学びの成果の還元」を、末永く世代を通じて、また、

お住いの地域の人的交流という視点から広げること、より多くの人の Well-being の向上や、豊かな暮らしの実現に繋げていただきたいと思います。

結びになりますが、自治会や生涯学習奨励員の皆様には、地域の生涯学習を推進するリーダーとして、今後とも、本市における生涯学習の発展にご尽力いただけますようご期待申し上げます。そして、一人でも多くの人が多様

前奨連 総会

先輩から受け継いだ三つの理念 活動の指針

任期三年の最後の前橋市生涯学習奨励員連絡協議会総会が、令和六年五月二十日に開催されました。コロナ禍も落ち着いて参加人数一〇七名での総会となりました。

「奨励員制度三十八年の歴史のなかで、先輩から受け継いだ三つの理念があります。①知る②地域を学ぶ。気づき深掘りするなかに泉あり③共に生きる④地域とつながる⑤行動を学ぶ⑥地域行事に積極的に参加。任期三年のなかで活動がままならなかったこともあったことと思いますが、新年度に向けて「活躍を」との大井会長のあいさつがありました。

その後、ご来賓のあいさつをいただき、協議に入りました。令和五年度事業実績・決算報告が審議され、引き続き令和六年度事業計画案・予算案が承認されました。任期三年の最後の一年ですが、実りあるものにして行こうとの思いを新たに閉会となりました。

総会終了後は、「豊かさを広げる活

な学びの機会を享受でき、生涯活躍できる力を育める地域づくりに向けて、格別なるお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

なお、本年八月には、多彩で豊かな学びの未来と伝統を体感できる「生涯

学習フェスティバル2024」が前橋プラザ元氣21内中央公民館で開催されます。恒例の「わがまち広報紙まつり」や、前橋鈴木貫太郎顕彰会の会長と理事による特別対談など盛り沢山の内容です。

動を 新時代の生涯学習について」と題して共愛学園前橋国際大学学長、共愛学園前橋国際大学短期大学部学長の大森昭生氏の講演がありました。

キーワードは「ウェルビーイング」

ウェルビーイングは、身体の健康状態が良好であるだけではなく、「肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態」の幸福を意味しています。前橋市でもウェルビーイングをもとにさまざまな取り組みがされています。地域の幸福をどう考えていくか、地域活動をつくりだし、地域活動に参加し、地域が一体化することで幸福感につながるのではないのでしょうか。デジタル社会に必要なことは、生の体験。それをつくるのが生涯学習の実践の場になるのではないのでしょうか。また、自分の人生や周りの世界をよくする力は自分たちなのです。そのための学びを積み重ねていくことが大切です。

地区だより ④8

生きがい塾で生きがいを

五中地区・天川町奨励員

倉澤 敏彰

五中地区の奨励員は(文京、天川地区八町)、毎年「生きがい塾」を成功させるべく企画、立案、講師の依頼、会場の確保、講師との日程調整等到大変苦慮しますが、学びのしおりが出来上がり会員の皆様へお届けできると準備完了となります。「生きがい塾」は、今年で四十四回目を迎えています。

生きがい塾は、地域の学びの場であり、主催は文京地区社会福祉協議会、文京、天川地区八町の自治会が後援しています。生きがい塾は、高齢者教室として文京町教室が誕生し、生きがい塾の名称が使われるようになったのが、一九九六年(平成八年)です。それ以来、生きがい塾は、現在に至っています。

令和二年に、創立四十周年を迎えましたが、コロナで実施できませんでした。しかし、記念に「年輪」というタイトルで小冊子を作成し、会員の皆様に配布しました。

毎年多岐にわたる講座を開催

生きがい塾の一年は、五月の開講式から始まり、八月を除いた十月まで、九回の講座と一回の研修旅行を行っています。講座の内容は、経済、文化、歴史、教育、音楽等、誰もが楽しく学べる内容となっています。創立当時の講座内容は、高齢者を意識したものとなっていました。現在は誰もが楽しく学べる内容となっています。十月には、最後の講座と閉講式を行い、九講座全てに参加した会員に、皆勤賞として記念品が贈られ、一講座でも参加した会員全員に修了証書が贈られます。前橋のある著名人によると、「前橋広しとは言え、これだけの長期間にわたるボランティア事業として生涯学習の向上に努められた団体は他には無く、生きがい塾は、前橋の宝であり、財産でもある」と評していただきました。

今年もフェスティバルを行うと聞いていますが、私たち八町の奨励員は、生きがい塾の運営がすべてであり、生きがい塾を紹介したいと思っています。

現在の生きがい塾会員数、一六四名、年会費、一名一五〇〇円
一講座の参加者数、約九〇〜一〇〇名です。

今後、年々減少していく会員数を増加させるのが大きな課題です。

生涯学習奨励員。いま、わが町で

続けてきた

町の文化祭

城南地区・今井町奨励員

福田 寛司

今井町自治会主催で町の文化祭を開催したのは平成元年が最初でした。今から三十六年前になります。開催日は勤労感謝の日にあたる十一月二十三日(祝日)とし、同じ日に高齢者を招待して敬老祝いの行事を行いました。また、敬老祝いの行事の中に踊りやカラオケ、フラダンス等の舞台発表を組み入れ、作品展示と学習団体による舞台発表の両方を集落センターで行い、町の人たちも参加できるよう運営してきました。作品展示会(文化祭)と敬老祝いの行事を合体して開催したのは、良いアイデアだと思っています。

令和二、四年と新型コロナウイルス感染症の感染予防のため舞台発表は開催することができませんでした。その間は踊りやカラオケの団体等も集まって練習することができませんでした。そのため多くの自主学習グループが自然消滅的に解散してしまいました。

事業の再開をめざす

作品展示会は二年間中止し、令和四年から再開を始めました。しかし休んだ影響は大きく、出品してくれる人を

見つけるのが大変でした。また敬老祝いの行事は令和五年度から再開しましたが、出演をお願いするグループが見つからず、プログラムを組むのに苦労しました。

今年文化祭を開催するとして「第三十四回今井町文化祭」と冠を付けることになりました。二年間は中止になりましたが、これだけ長く続けてきた先人達に敬意と感謝を感じます。

初めて町の広報紙「荒砥川」を発行したのも文化祭を始めたのと同じ、平成元年の七月でした。それから広報紙は隔月で発行を続け、令和六年五月には二〇八号になりました。その頃の人がいかに生涯学習というものを大切にしていたかわかる気がします。

サークル活動を通じて

親睦を図る

上川淵地区・朝倉町三丁目奨励員

木村 隆義

我が町は前橋駅の南東、約三キロの位置にあります。かつては農村地帯でしたが、昭和三〇〜四〇年代に朝倉団地として土地の造成・分譲が始まり住宅地に変貌しました。現在の人口は一、三五五八、六六五世帯(うち自治会加入五八一世帯)です。五〇年以上経過し住民の高齢化が

進み、人口減に歯止めが掛かりませんでした。ここ数年、空き家の解体と分譲住宅の新築が見られ、子どもたちの歓声も聞こえてきます。

住民の交流の場として、趣味を活かしたサークルがもつとあっても良いのでは?と考へ、二年前に切り絵サークルを立ち上げました。(会員一四名・月一回実施) 題材は花鳥風月や風物詩など多岐にわたりますが、技の優劣は二の次で、みな和氣藹々とやっています。さらにコロナ禍で中止していた作品展示会を昨年復活させ、切り絵の他に写真・水彩画・書・手工芸等の愛好者にも出品を依頼し好評を得ています。

他のサークルとしては、ピンシヤン体操とグラウンドゴルフ愛好会があります。前者は九年前から実施しており、インストラクターを含めて会員一三名で週一回実施。後者は十二年前から週三回行っていますが、高齢化とともに参加者が減り、現在は一五名程度です。以上三つのサークルには自治会から助成金が支給されています。

我が町は歴史が浅く、また他所からの移住者が多かったという経緯から、今でもコミュニティ形成が十分とは言えず、バス旅行、公園の清掃活動あるいは防災訓練その他、自治会主催の行事やイベントへの参加者が少ないのが課題です。今後、自治会とも協力・連携を取りながら魅力ある企画を考え、住民参加を促し親睦を図って行こうと思っています。

魅力ある町づくり

一中地区・南町二丁目奨励員

持田 保

少子高齢化、核家族化、定年制延長、共稼ぎの急増等で自治会運営の担い手不足が深刻化してきている状況です。そんな中、自治会を中心に各種団体の壁を取り払って①福祉の充実②皆が集う居場所③環境整備を目指して、企業、学校と協働して魅力ある町づくりをしています。

地域包括ケアシステム

二年前より町社協のモデル事業に参画し、三世代交流事業を中心に「輪投げ大会・ウォーキングラリー」「防災・健康・福祉教室」「庭の低木の剪定や草取り」などで市の関連部署、企業と協働して地域包括ケアシステムを実現しています。



輪投げ大会

しています。

「居場所づくりを進める活動」

以前から実施していた納涼祭、神社夏祭り等を各種団体と企業や学校と協働で住民全員が集う居場所づくりをしています。今年で四回目となる「野外作品展」も地域住民と近隣学校や企業の参画で実施されます。

環境整備では、町内にある二十二か所のごみ集積所の管理や毎月の有価物集団回収も各種団体と融合して実施しています。また、町内にある三つの公園では、地域住民の奉仕の気持ちで毎月清掃と花壇の花の植栽が行われ、市の関連部署と企業や学校の協働により、素敵な公園に姿を変えつつあります。

全ての事業は、以前のように各種団体それぞれが行う事が出来ない状況下の中で、住民の方たちが魅力ある町にしようとの気持ちで今後も受け継がれて行くと思っています。

結びに生涯学習奨励員として、今後このような活動が受け継がれていくために、広報活動を通じて伝えていくつもりです。

石倉町中部の現状と歴史

元総社地区・石倉町中部奨励員

松田 寛

我が石倉町は、東に利根川、西に滝川の間にあり、石倉町・石倉町一丁目・石倉町二丁目(一部)により構成された町です。世帯数は二六二戸。人

口五五二名という元総社地区でも小さな町です。人口の内、七十五才以上の方が一〇八名という典型的な少子高齢化となっています。

奨励員としては、民生児童委員と共にふれあいサロンを年に八回ほど開催し、笑顔の絶えない健康的なお年寄りでいられるよう大勢の皆様に参加していただいております。また、自治会主体の行事、七月八坂神社の夏季祭典、八月の三世代グラウンドゴルフ大会、九月の敬老祝賀会、十一月の町内文化祭等に積極的に参加しています。

八坂神社の夏季祭典は天狗・おかめに扮して、各世帯を巡行しお祓いをし、お札を納めるという当町独特なお祭りです。

このような大切な行事を守り、今後も続けていきたいと思っています。

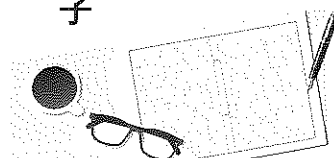
わが町の歴史

明治十七年上野・前橋間に鉄道路線が敷設され石倉に前橋ステーションの駅舎が建てられました。ここから前橋名産の生糸が横浜に向けて運ばれていきました。翌十八年には鉄の橋利根橋(現利根橋の前)が架けられ前橋の玄関口として中石倉が誕生発展しました。昭和二十八年群馬大橋が出来た頃、中石倉町は商店街として発展し、当時は店舗数一三〇店余りと大変賑やかな町となりました。昭和四十年現利根橋が出来た頃からは、車で通り過ぎる町となり、段々と衰退し、現在は当時の店の店は五店だけとなりました。

「生涯学習だより」の

あゆみ

芳賀地区生涯学習奨励員連絡協議会 会長 中山 洋子



芳賀地区は、十の町の生涯学習奨励員で「生涯学習だより」を、現在単独で隔月毎月配布で発行しています。

表面は、町の話題・私の本棚・春夏秋冬(エッセイ的なもの)、裏面は、あの人の人(以前は芳賀の史跡めぐり)を順番を決めて執筆しています。

「生涯学習だより」は、生涯学習奨励員と数人のボランティアで、平成元年十二月十五日に芳賀独自の「芳賀公民館報ボランティア会」を発足させました。

生涯学習推進に役立つ広報の発行と

地域に根ざした学習情報の提供。そして地域に親しみながら学び合う楽しさを目的に結成されましたが、平成十三年三月に解散し、その後、奨励員が引き継ぐかたちで発行しています。

芳賀地区は古い歴史を持ち、地域に誇れる文化財や遺跡が数多く現存しています。人の営みが歴史をつくり、歴史が人を育てるといわれます。

現在、活動の中で各町の歴史を見直すということから、以前に設置した文化財標柱が老朽化したので、平成二十八年度に自治会連合会と町づくり

の協力を得て新しい標柱板を設置しました。設置にあたり、奨励員が文章と写真を載せました。

平成三十年十二月一日の「生涯学習だより」は、新企画として「芳賀史跡めぐり」をスタートさせました。この企画は、芳賀地区の主だった史跡について紹介するものです。標柱板と既存の史跡を合わせて、場所と内容を奨励員が村誌・町誌その他の文献を参考にし、取材や写真を撮ったり、肖像権や著作権に考慮し、掲載しました。

この企画は、旧国宝の鉄道阿弥陀如来座像について掲載し、令和六年一月号から第三十九回地輪踊る男子像で終了しました。掲載された史跡や文化財・偉人は、いずれも本地区にとつてかけがえのない地域遺産です。

来年五月に発行予定の「新芳賀のうずもれた文化財めぐり」に向けて、奨励員の編集プロジェクトを発足させました。これから、地域のいろいろな団体に協力していただき、一日でも早く発行できることを願っています。

これからも奨励員と町民が、より良い関係性を構築できるよう、この「新芳賀のうずもれた文化財めぐり」の発行がその一助になればと思っています。

前奨連会報

一〇〇号に寄せて

芳賀地区の中山洋子さんから特別投稿がありました。

地域を知る、地域に学ぶ、住民との交流等々、奨励員の役割のひとつとしての取り組みの様子を書いていただきました。また、当紙面では各地区の様子や町の活動等を執筆していただいておりますが、一〇〇号までの三十四年間で貴重な歴史が垣間見られます。

あゆみ(4月〜7月)

▼II主要事項

4・5 ■総務委員会▼理事会対応案件

4・19 ■第1回理事会▼6年度事業・予算等総会関連▼6年度総会・研修会関連

5・20 ■6年度総会および研修会6・11 ■生涯学習フェスティバル2024第1回代表者会議▼行事開催計画(8月31日開催予定)

7・16 ■第2回理事会▼フェスティバル具体的実施内容関連

7・16 ■フェスティバル第2回代表者会議▼具体的開催計画

